

編 集 後 記

平成24（2012）年は、歯学会会員の皆様にとりまして、どんな年だったでしょうか。野田総理の「近いうち解散」を受け、年末に行われた本物の「総選挙」で、主権者である国民の厳粛な審判が下されました。この1年をざっと見渡しますと、ユーロ危機から世界全体に広がった景気後退、修復の見通しが立たない日・中・韓の関係、新総理の政策で脱出なるのか円高・デフレ・家電不況、等々、困難な課題が次から次と現れた1年でした。そんな中、iPS細胞の作成で山中伸弥教授がノーベル医学生理学賞を受賞されたことは、日本国全体に明るい希望の輪を広げました。来年は村上春樹氏のノーベル文学賞で、また盛り上がることでしょう。ノーベル賞といえば、6人のノーベル賞受賞者と国内・外の優秀な大学院生が同じホテルに1週間缶詰となり、英語でディスカッションする「HOPE meeting」への参加を申し込み、みごと難関を突破した微生物学分野大学院生の眞島いづみさんには、大舞台に臆することなく、この貴重な交流の機会に将来の独創的な発想につながる多くの「驚き」を体験されることを期待します。

例年6月に発刊される1号と比べ、ほぼ半分の厚さとなる2号ですが、第31巻2号では、多くの会員のご投稿に支えられて1号よりもむしろ厚くなりました。萌芽的・挑戦的な研究と格闘する若い研究者からの原著論文とともに、ベテランの諸先生からは滋味あふれる総説を多数ご投稿頂くことによって、超一流の国際的英文雑誌とは趣の異なる、学内学会誌としての特色ある役割を果たしていきたいと考えておりますので、今後とも活発なご投稿をお願い申し上げます。（田隈記）

次号（第32巻、第1号）の発行は平成25年6月30日です。

投稿原稿募集の締め切りは平成25年3月31日必着と致します。期日厳守の上、ご投稿をお願いします。本誌投稿規定は、2012年第31巻、第2号の巻末をご参照ください。